あ　い　さ　つ

三好教育研究所は，昭和４２年（1967）に教育に関する専門的，技術的事項の研究および教育関係職員の研修を行うことを目的に「三好郡教育研究所」として設置されました。以来４６年間，三好地域教育の特徴や課題の調査とその解消に向けた分析・研究をし，本地域の教育経営に資することができるよう運営しております。

さて，「教育の再生」という言葉が最近よく聞かれるようになり，教育改革の動きが活発化しています。文部科学省の平成２６年度予算案では「世界トップレベルの学力と人間力を備えた人材と優れた科学技術によりフロンティアを切り拓き，新しい日本をつくる。このため，『教育再生』を実現する」とあり，重点施策の中にはグローバル人材育成のために小中高校における英語教育の改革が盛り込まれています。また，道徳教育の充実では，新『心のノート』と外部講師の活用などが予算化されています。さらに特別支援教育の充実やいじめ対策，防災対策の上に土曜日の教育活動推進事業が新規に加えられるなど，学校現場には今後の教育改革に伴って教育活動の更なる研究と実践が求められると思われます。

そのような変化の激しい中にあっても，三好地域の各園，各学校におかれては子どもたちの特性を見極め，課題解決に努めたり，もてる力や可能性を引き出して伸ばしたりするための指導法を探求し，特色ある教育の創造をめざして，熱心に取り組んでおられます。全ての子どもたちを健やかに，将来の社会を担う人材として育むことの責任と使命を自覚し，日々の教育活動に専念されている先生方の努力と力強さに敬意を表します。

本研究所では，その貴重な研究と実践の成果をできる限り多くの教職員の皆様に普及，共有していただくことに努めております。本年度は研究主題「未来を切り拓き，心豊かにたくましく生きるこどもの育成」として７名の先生方に研究を委嘱し，それぞれの教育現場で研究に取り組んでいただきました。その研究内容をまとめていただいた貴稿を２５年度三好教育研究所報に掲載させていただきました。同じ三好地域内諸学校で参考となる実践内容が多く，これらの研究成果を各学校現場の実践に生かせていただけましたら幸いです。

最後になりましたが，本年度も三好市，東みよし町両教育委員会をはじめとする関係の皆様，ならびに三好教育会事務局および研究所協力委員の皆様には物心両面にわたりご支援を賜りましたことに心よりお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

平成２６年３月

三好教育研究所長　吉田美千代

目　　次

あいさつ　　三好教育研究所　所長　吉田　美千代

―――― 委嘱研究員研究 ――――

■未来を拓く幼稚園教育の創造 ……1
～幼児が積極的に人やものとのかかわり，様々な体験活動を通して豊かな心を育むために～
昼間幼稚園　教諭　石井　やよい

■目に関する健康教育への取り組み ……4
～普通教室で電子黒板やタブレットパソコンを利用する環境での目の健康に着目して～
足代小学校　養護教諭　大久保　智江

■体育科において主体的に授業に取り組ませるための教師の手立て ……12
～器械運動・水泳・陸上運動を通して～
井内小学校　教諭　中瀧　由紀

■「地域」から「未来」へ ……16
～夢に向かって「生きる力」を身につけた児童の育成～
馬路小学校　教諭　石丸　美穂

■社会を生き抜く力をどう育てていくか ……20
～キャリア教育の視点からの授業を考える～
東祖谷小学校　教諭　福田　浩司

■福祉教育を軸とした総合的な学習の時間の実践 ……25
～体験学習を通して～
池田中学校　教諭　細川　誠治

■互いを認め合い，共に生きる仲間づくりをめざして ……28
～ハンセン病問題学習を通して～
山城中学校　教諭　峰友　眞弓

■平成25年度　三好教育研究所事業報告 ……31

■歴代委嘱研究員一覧（平成元年～）

研究主題

未来を拓く幼稚園教育の創造
～幼児が積極的に人やものとかかわり，様々な体験活動を通して豊かな心を育むために～

昼間幼稚園　教諭　石井やよい

１ はじめに

子ども達は，集団生活において，自分を温かく受け入れてくれる教師との信頼関係を基盤としながら，自分の居場所を確保することで，安心感をもち，興味があることや，やりたいことに取り組めるようになる。その中で，多様な葛藤経験を味わい，相手の感情に気づき，共に活動することの楽しさや喜びを見出していく。しかし，幼児の発達の姿はそれぞれが異なっている。そのため，子ども達の実態をとらえ，一人一人に寄り添った保育を進めていかなくてはいけない。

２　研究の目的

近年子ども達の身の回りには，物が豊富にあり，室内で既成の玩具やパソコン・テレビゲームなどを使った視覚と聴覚の間接体験の遊びが多くなっている。そのため，自分たちで何かを創造する喜びを味わったり，一つのことをやり遂げたりする経験が減少している。また，家庭環境の変化に伴い人間関係の希薄化がすすみ，自己中心的な言動が増えたり，困難や葛藤を乗り越える力や，人とかかわる力が弱くなったりしている。

本園でも，保育所からの友達とのかかわりはあるものの，自分の思いを伝えるよりも先に行動で示したり，思いをうまく伝えられなかったり，相手の思いをうけとめることがむずかしかったり，自己中心的な言動が多く見られたりする園児の姿がある。

そこで，子ども達が身近な人やものと積極的にかかわり，様々な体験活動を重ねる中で，自分の思いを表現したり，相手の思いや良さに気づいたりしてほしい。また，共感し合う楽しさ，一人ではできないことも，友達と協力し合ってやり遂げる達成感や喜びを味わったりしてほしい，と願いこの主題を設定した。

３ 研究の方法

子ども達が安心して園生活を過ごす中で，友達や教師とじっくりかかわりを深め，様々な感情の交流をしながら，豊かな心を育むためには，どのような教師のかかわりや，環境の構成が必要なのか研究し実践を重ねる。

４ 実践例

本園は，５歳児１年保育で，男児８名　女児１１名の１９名が在籍している。

ほとんどの幼児が近隣の２つの保育所（園）から入園しているが，町外からの入園児や，家庭から（集団生活の経験がない）の入園児もいる。そのため，一人一人の発達段階には大きな差がある。

環境の変化から，入園当初は戸惑いがあった園児，慣れることに時間を要する園児もいたが，園生活に慣れてくるにしたがって，自分の好きな活動・興味をもった活動を見つけ，園児同士誘い合って活動に取り組む姿が見られるようになった。

戸外では，昆虫とかかわり，興味深く観察したり，知っていることを教え合ったりする姿や，花びらを使って色水を作り，その色の違いを比べ合って楽しんだりしている姿，自転車乗りを楽しむ姿があった。室内では，広告の用紙を使っての製作活動や，遊戯室で大型積み木やカラーボックスを使ってごっこ遊びを楽しむ姿も多く見られた。

特に広告の用紙や色々な素材を使っての活動を好み，自分のイメージを表現することを好む子ども達が多く，その活動を通して，友達とのかかわりも深まってきている。

事例　～阿波踊り～　　９月上旬～

長い夏休みも終わり，みんな一回り大きく，たくましくなったように感じた。

二学期は色々な活動が深まる時期であるため，“十分な製作や活動ができるように”と思い，園児の保護者の方からいただいた，空パックや空容器，色々な芯などをたくさん準備しておいた。

登園すると，さっそくパックに気が付いたＫ児が乳酸菌飲料の容器を丁寧にとめながら重ね合わせていた。しばらくすると「先生ここおさえといて。」と持ってくるので言われた部分を押さえておくと，色々な芯の強さや大きさを手で確かめ，比べながら少し長めの棒を作り，乳酸菌飲料の容器を重ねた物に取り付けた。「やった。できた。」「これな阿波踊りの持つやつよ。」と自慢そうに見せてくれた。とても上手に大きさを考えながら張り合わせ，つなげ提灯を作っているので「ほんま。上手にできたなあ。」と声をかけると嬉しそうに笑った。そばで見ていたＩ児「オレも作る。Ｋ教えて。」とさっそく作り始めた。「いっぱいつけないかんなあ。」「こっちくっついてない。」などとＫ児に手伝ってもらい，確かめながら作っている。作り終えると「見せてこう。」と二人で顔を見合わせながら遊戯室に見せに行った。

しばらくして「これもいるんじゃ。」と急いで戻り，色紙に『えびす』とペンで書き，貼り付けるＫ児とＩ児。見たことのあるイメージを表現している様子。「オレも作る。」「私も。」とＳ児たちが駆け込んできたが，残念なことに片づけの時間となった。

次の日，さっそく自分が作った提灯を持ち，歩き始めたＫ児Ｉ児。「今日は作るけん。」とＳ児Ｈ児たちも作り始めた。早く活動がしたいためか，気は焦っているようで，思うように作成できないＳ児。「Ｉ手伝って。」と声をかけるが，「自分でしたら・・Ｈちゃんも自分でしよる。」と手伝ってくれない。「だって・・できん！」と，悔しそうな様子のＳ児。以前なら思うようにできなかったら，投げ出すことも多かったが，少しずつやり遂げるようになってきている。「あとちょっとじゃ。がんばろ。」と声をかけ，なるべく自分の力で作りあげるようにかかわった。やがて「やったあ。できた。」「行ってくる。」と嬉しそうに先の二人に合流した。「そうじゃ。幼稚園の庭に出よう。」と外に出て提灯を動かすＫ児たち。それを見ていたＹ児Ｍ児たち「私ついて踊るわ。」と提灯を持つ４人について急いで靴を履き園庭にとび出した。「ホンマの阿波踊りみたい。」と，にこやかに顔を見合わせていた。

次の日も数人の園児達が園庭に出て，阿波踊りごっこを始めた。「ちょっと壊れた。」と修正する園児や「うちわもいる。」「服もいる。」「太鼓や鉦もある。」「頭にかぶるものもいるなあ。」と新たに必要な物を相談し合い，活動を始めた園児もいた。

Ｈ児は持つ部分を乳酸菌飲料の容器をつなげて作っていたが，折れてしまい何度テープで補強

してもうまくいかない。「こっちを使ったら？」とラップの芯やガムテープを持ってきたＫ児の言葉に「そうじゃな。Ｋ君ありがとう。」と納得した様子で，付け替えるＨ児。付け替えた後，自分で確かめ「これでええわ。」と頷き活動に戻っていった。

しばらくすると「そうじゃ！先生！阿波踊りの歌ないん？」と駆け込んできたＫ児とＪ児。「あるよ！」とあらかじめ準備していた曲をかけると，「わあ！やったあ。」と嬉しそうに顔を見合わせ合った。

『友達同士で助け合っているんですね。安心しました。』『幼稚園で阿波踊りをしているのかと思いました。テレビで見た阿波踊りに関心があったのかもしれませんね。幼稚園の活動で生かせてもらってうれしいです。』など保護者からの言葉もあった。

そのうちに運動会の練習も始まり，阿波踊りの活動は停滞していたが，『置いときたい。』との子どもたちの思いから，作った道具は大切にクラスに保管していた。小学校の３・４年生が運動会で阿波踊りをしていることを知り，「一緒じゃ。」と親しみをもった様子の子ども達。「ぼくらも小学校になったら，するんよなあ。やりたいなあ。」とＯ児。小学校に姉がいることから，毎年３・４年生が運動会で阿波踊りをしている事を知り，楽しみにしているようだ。

考　察

・家庭で見たこと，経験したことを幼稚園での活動に取り入れ，自分のものとして活動に取り組めていた。
・色々な素材の材質を確かめながらも，自分の目的に合うものを探し出し，その自分のイメージに沿って製作を進めていくことができた。その中で新しいイメージが広がり，新たに遊びに使いたいものを作る活動が生まれ，活動に深まりがでてきた。
・自分で工夫しながら作ったものだから，壊れかけても，捨てようとせず，補強したり修正したりしながら活動に取り組んでいた。このことは物を大切に使ったり，再利用したりする思いや，活動につながると思う。
・活動の中で試行錯誤が繰り返され，アイディアを出し合ったり，教え合ったり，相談し合ったりする中で，友達とのかかわりが広がった。
・思うようにできなくても，友達や保育者の励ましやかかわりで，最後まで仕上げることで，喜びや自信につながり，“頑張ろう”という意欲になっていく。

５　おわりに

子ども達は，安定した園生活の中で，友達や保育者と様々な活動や体験を通して，かかわりが深まり，お互いの良さを認め合い，共に過ごすことの楽しさや，一緒にやり遂げる嬉しさを感じ，友達を思いやる心や優しさが育ってきている。

子ども達が今どんなことに興味があるのか，何を実現しようとしているのかなど，子ども達の思いをとらえ，子ども達が目的を達成できるだけの遊具や素材，活動に取り組める十分な時間や空間，活動を展開していける状況や雰囲気を作り出すことが大切だと改めて再確認した。また，日々の保育を振り返り，研修を重ねながら反省を繰り返していきたいと思っている。

研究主題

目に関する健康教育への取り組み

～普通教室で電子黒板やタブレットパソコンを利用する環境での目の健康に着目して～

足代小学校　養護教諭　大久保 智江

1　はじめに

現代社会では情報化が進み，パソコンやテレビ，ゲーム等の普及が著しく，児童生徒を取り巻く環境は日々変化している。教育においても同様に情報教育が進み， ICT を利活用して児童が教え合い，学び合う「協働学習」が推進されている[1)]。本校では平成 22 年度から総務省フューチャースクール推進事業の指定を受け，電子黒板やタブレットパソコンを活用した授業実践を行っている。本研究は，電子黒板やタブレットパソコンが入った新たな教室環境の中で，児童が自らの健康について考え，健やかに生きる力を育てることをねらいとしている。

文部科学省平成 24 年度学校保健統計調査[2)] によると，小学校において裸眼視力 1.0 未満の児童が増加傾向にあり，今後も増えていくと予想される。その原因の一つとして，パソコンやテレビ，ゲーム等の長時間の使用による目への負担があげられる。また，ドライアイが低年齢でも増加している。本校においても，教育の情報化を進めていく中で，目の疲れや視力低下，ドライアイ等の VDT 作業による悪影響が児童に現れていないか日々心配しており，特に目の健康教育に取り組む必要があると考えた。

そこで本研究を通して，児童の目の健康を守るため，適切な教室環境の整備及び健康教育により，児童自身が目を健康に保つために必要な知識や生活習慣について理解し，自ら目の健康を守ろうとする態度を養いたいと考え，学校全体で取り組むこととした。

2　学校の実態

本校は三好郡東みよし町の平坦部にあり，吉野川の北岸に位置し，豊かな自然に囲まれた環境にある。児童は素直で，何事にも真面目に取り組むことができる。スポーツ少年団に入っている児童も多く，運動場で元気に走り回っている姿がみられる。児童には 1 人 1 台タブレットパソコンが貸与されており，デジタル教科書等を活用した授業に，興味を持って楽しく取り組んでいる。しかし，授業中に姿勢の悪い児童も少なくなく，パソコン画面をのぞき込むように作業する子もいる。休み時間には外遊びをせず，パソコンをする等室内で過ごす子もいる。これらのことから，目を休めることの大切さや目の健康について意識を向上させる必要があると感じた。

4 月に実施した視力検査結果と徳島県の保健統計結果[3)] を比較すると，男女ともに，矯正検査人員の割合が少し高かった（表 1)。

表 1　本校と徳島県の視力検査結果

＜裸眼視力＞

検査項目		＜ 男 子 ＞ 合計		＜ 女 子 ＞ 合計	
		人数	率	人数	率
視力検査人員	本校	58	100.00%	51	100.00%
裸眼検査人員	本校	53	91.38%	43	84.31%
	徳島県		92.22%		89.74%
1.0以上　A	本校	47	81.03%	33	64.71%
	徳島県		71.57%		66.38%
0.7～0.9　B	本校	2	3.45%	3	5.88%
	徳島県		9.02%		9.82%
0.3～0.6　C	本校	4	6.90%	6	11.76%
	徳島県		8.99%		10.03%
0.3未満　D	本校	0	0.00%	1	1.96%
	徳島県		2.64%		3.51%

＜矯正視力＞

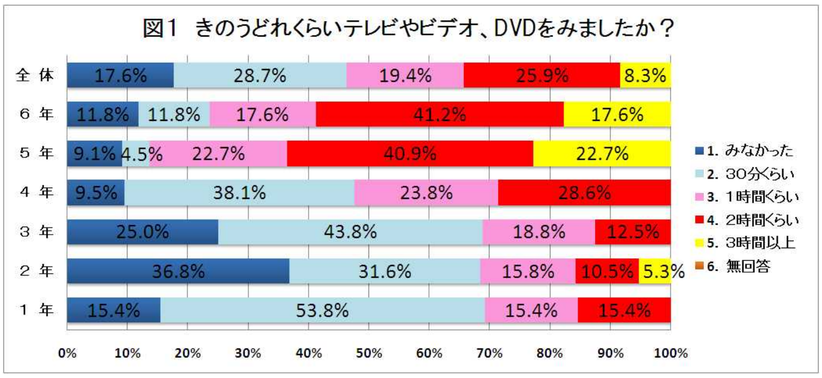
検査項目		＜ 男 子 ＞ 合計		＜ 女 子 ＞ 合計	
		人数	率	人数	率
視力検査人員	本校	58	100.00%	51	100.00%
矯正検査人員	本校	5	8.62%	8	15.69%
	徳島県		7.66%		10.19%
1.0以上　A	本校	5	8.62%	2	3.92%
	徳島県		2.82%		3.24%
0.7～0.9　B	本校	0	0.00%	4	7.84%
	徳島県		2.45%		3.13%
0.3～0.6　C	本校	0	0.00%	2	3.92%
	徳島県		2.06%		3.25%
0.3未満　D	本校	0	0.00%	0	0.00%
	徳島県		0.33%		0.57%

３　研究の方法と実践

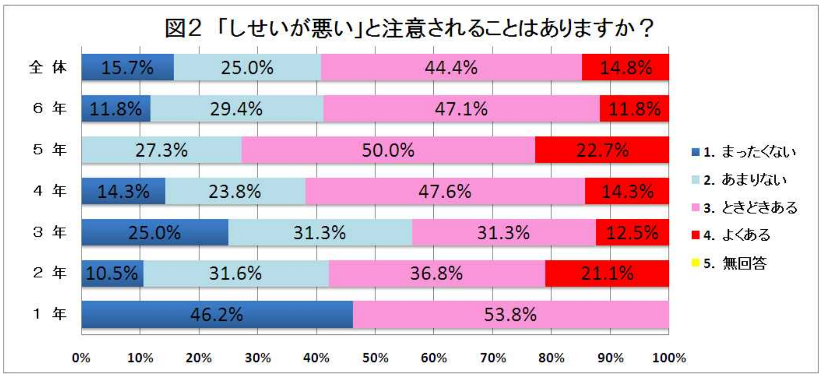
（１）　実態調査

①目についてのアンケート（１回目）の実施

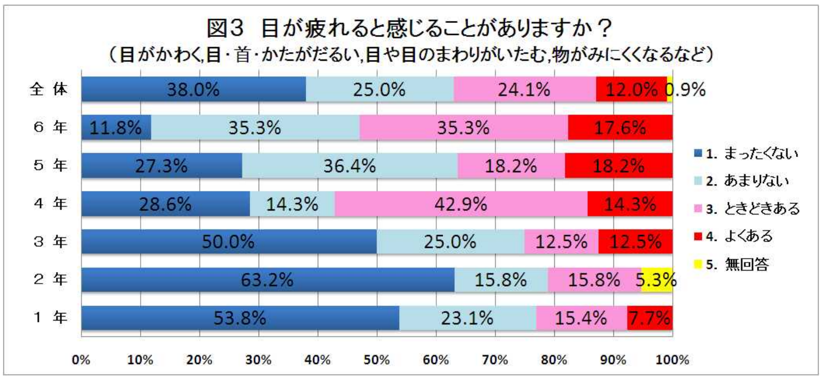
９月に全校児童を対象に，目の健康に関連する生活習慣について自記式質問紙法により調査を実施した（一部抜粋）。



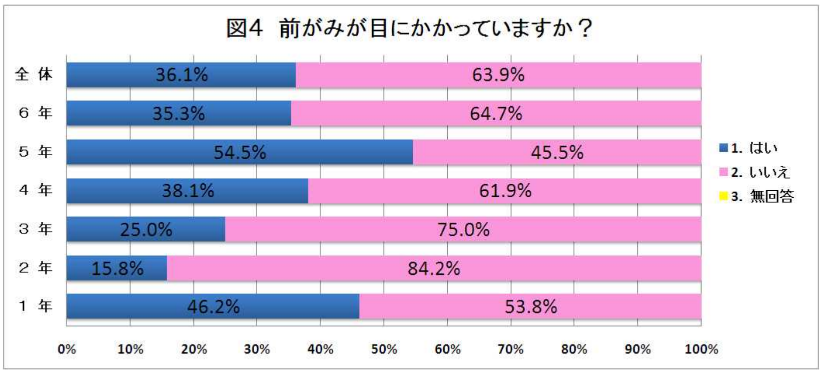
テレビ等の視聴時間が，２時間以上と答えた者が全体で 34.2%であった。学年ごとにみると，2 時間以上と答えた者が５年生では 63.6%，6 年生は 58.8%であった(図 1)。



「姿勢が悪い」と注意されることがあると答えた者が全体で 59.2%であった。ほとんどの学年において半数以上の者が「姿勢が悪い」と注意されると答えた（図 2)。



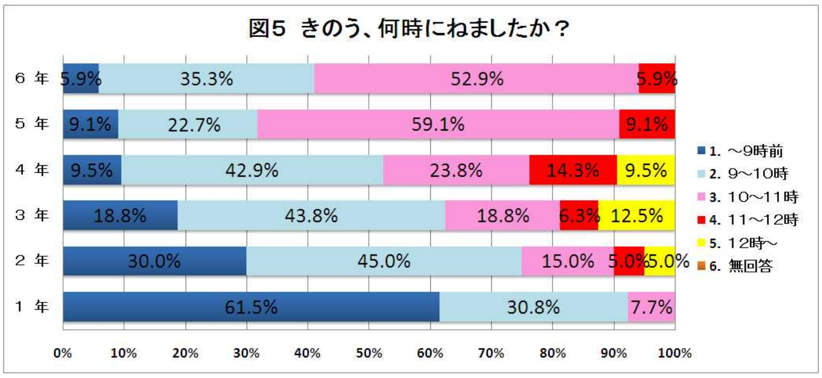
目が疲れる等の自覚症状があると答えた者が全体で 36.1%であった。4・6 年生では半数以上の者が，5 年生では３分の１以上の者が，目が疲れる等の自覚症状があると答えた（図 3)。



前髪が目にかかっていると答えた者が全体で 36.1%であった。学年で差がみられるが，前髪が目にかかっている女子児童が学校全体で多いと感じた（図 4)。

② 生活しらべの実施

6月に全校児童を対象に，基本的生活習慣について自記式質問紙法により調査を実施した（一部抜粋）。



4年生以上では半数以上の者が，10時以降に就寝しており，就寝時刻が遅い児童が多かった。目の休養のためには睡眠が大切であることを認識させる必要があると感じた（図5）。

2つのアンケート結果から，本校の児童は学年が上がるにつれてテレビ等の視聴時間が長く，就寝時刻も遅くなっており，全校児童の3分の1以上が目の疲れ等の自覚症状を感じているという健康課題が把握できた。このことから，特に高学年において，目の健康を守るために大切な生活習慣について保健指導を行うことが必要であり，全校児童に対しても正しい姿勢や前髪等，目の健康について意識の向上を図っていきたいと考えた。

（2） 視力検査の実施と結果通知

毎学期，視力検査後すぐに，結果を保護者へ通知した。フューチャースクール推進事業が開始した平成22年度からの視力検査結果を経時的にまとめ，児童の健康管理に役立てた。

（3） 教室の環境衛生検査と整備

① 照度測定

教室環境の実態を把握するために毎学期，晴れ・曇り・雨の日の午前と午後に，学校環境衛生基準に従って1年教室（1階）と5年教室（2階）の照度測定をした（写真1）。教室の中でパソコンや電子黒板を使用するため，パソコン画面の垂直面照度や電子黒板の照度も合わせて測定した。

写真1　照度測定

（2）机と椅子，パソコンの高さの調整

毎学期，身体測定後，教室の机と椅子の適切な高さを一覧表にまとめて学級担任へ渡し，高さを調整した。また，見やすさや良い姿勢を保持するためにパソコンの高さや角度にも配慮し，パソコン台を作成し活用している（写真2）。

写真2　パソコン台

（4） 保健指導の実施

① 5・6年生への学級活動における保健指導

5・6年生において，学級担任と養護教諭がT・Tで保健指導「目の健康について考えてみよう」を実施した。目の疲れや視力低下等の予防には，普段の生活習慣が深く関わっていることを理解し，目の健康を保つためによりよい生活習慣を身につけようとする意欲をもたせることを目標とした。

事前のアンケート結果から問題意識を持たせ，視力低下の原因となるような生活習慣をしていな

いか，普段の生活を振り返らせながら確認し，目に良い生活習慣についてテレビ，パソコンの使用時間と距離，姿勢，食事，運動，睡眠，休養等の面から考えさせた。実際に，ディスプレイと目との距離を児童同士で測り合わせ，適切な距離や正しい姿勢，使用時間を守ることについて指導した。続いて目の健康体操を全員で実施し，最後に自分の目の健康を守るためにこれからできることを考えさせ，発表し合った（写真 3)。

写真３　５・６年生への保健指導

②４年生への学級活動における保健指導

４年生においても，保健指導を実施した。5・6 年生への保健指導での反省点を踏まえ，授業にグループ活動を取り入れて，児童がじっくりと目の健康について考えることができる時間を確保した。そのことにより，児童同士で活発に話し合い，よく発表することができていた（写真 4)。

写真４　４年生への保健指導

（５）　児童保健委員会活動（全校児童への保健指導）

10 月に「目の愛護デー」と合わせて，目の保健集会を実施した。保健委員会の児童が中心となり，目についてのアンケート結果を発表し，目の健康を守るために必要な生活習慣について〇×クイズをした。低学年の児童にも理解しやすいように絵で示したり，パソコンを使用する時の適切な距離や正しい姿勢等について実演したりした。どの学年の児童も，視覚的に楽しくわかりやすく目の大切さについて考えることができていた。また，目の健康体操を全校児童で実施した。その際，保健委員会の児童が前で実演し，事前に授業を受けた高学年の児童が，低学年の児童の横で目の健康体操の仕方を教えるようにした（写真 5)。

写真５　目の保健集会

（６）　教職員との連携

校内研修や職員会議で，アンケート結果から得られた児童の実態や教室の照度測定の結果，眼科の学校医から指導を受けた内容等について報告し，共通理解を図った。また，校内研修で保健指導案の検討を行う中で，学校全体で目の健康教育に取り組もうとする意識が高まり協力体制を整えることができた。学校全体で毎日，目の健康体操を行うことになり，電子黒板で動画を流し，学級担任や養護教諭が協力しながら，児童とともに目の健康体操を続けている。

（７）　学校医・学校薬剤師との連携

眼科検診後に，眼科の学校医に校内の様子（教室や電子黒板，パソコンの利用状況等）を確認していただき，専門的な立場から，近視予防のために姿勢を良くすることや遠くを見ること，教室の照度とパソコン画面のグレアに配慮すること等を，また VDT 作業については使用時間と目の休養，ドライアイの危険性等の指導を受けた。授業実践前には，眼科の学校医に目の健康体操の内容を確認していただき，目を温めて目・首・肩等の体を動かすことは目の疲労回復に良く，目の健康を保つ上での意識づけに良いと指導を受けた。

学校薬剤師には学校から依頼し，８月に照度測定をしていただいた。照度測定の方法や教室環境，パソコンを使用する際の適切な照度等の環境面について指導を受けた。

（８）　保護者への啓発

ほけんだよりの発行や，目の健康体操の動画を学校のホームページに載せ，インターネットを利用して家庭においても目の健康体操を実施できるようにした。

４　結果と考察

（１）　実態調査

①目についてのアンケート調査（2 回目）の結果

これまでの取り組みの評価として，保健指導の約 1 ヵ月後の 11 月に 2 回目の目についてのアンケート調査を実施した（一部抜粋）。その結果，多くの質問項目で改善がみられた。

テレビ等の視聴時間が，2 時間以上と答えた者が全体で 4.6%減少した。2 時間以上と答えた者が 5 年生で 31.8%，6 年生で 23.6%と減少した（図 6）。児童からも，「遅くまでテレビを見ないで，早く寝ました。」との声が聞かれ，睡眠の大切さも含め健康意識の向上がみられた。

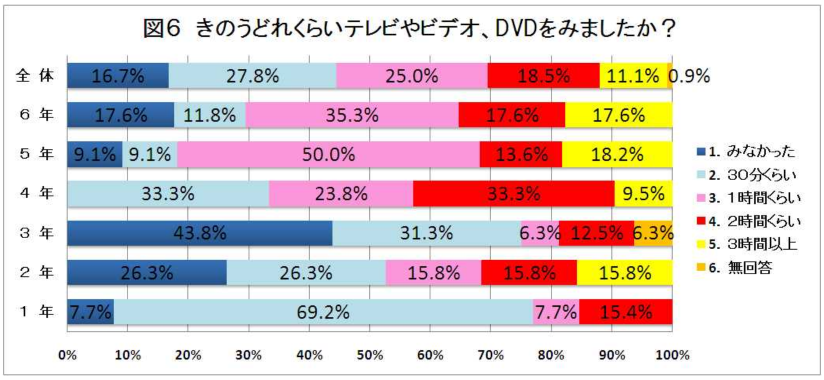


図6　きのうどれくらいテレビやビデオ、DVDをみましたか？

「姿勢が悪い」と注意されることがあると答えた者が全体で12.0%減少した（図7)。学級や集会での保健指導と合わせて，学級担任が日常指導をしたことで効果がみられたと思われる。1年生では，姿勢を注意される児童が増加しているが，これは目の健康教育への取り組みにより，学級担任が今まで以上に目の健康を意識され，日々姿勢の指導を行うようになったためである。この取り組みを行ったことで教職員の健康意識の向上につながり，日々の指導にも変化がみられた。

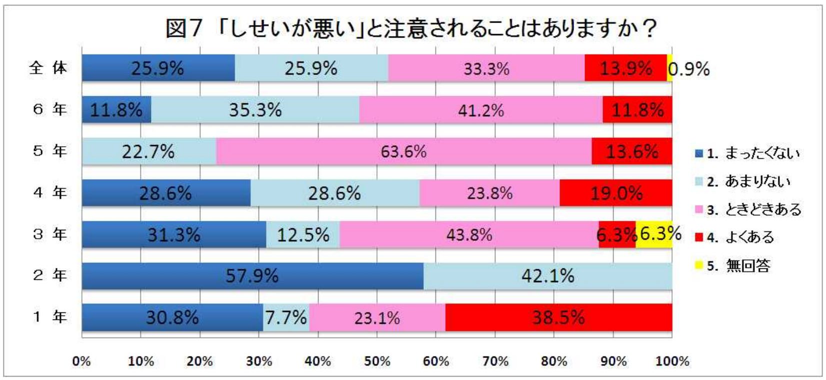


図7 「しせいが悪い」と注意されることはありますか？

目の疲れ等の自覚症状があると答えた者が全体で9.3%減少した。特に4年生で9.6%，5年生で18.2%，6年生で29.3%と減少し，大きな成果である（図8)。

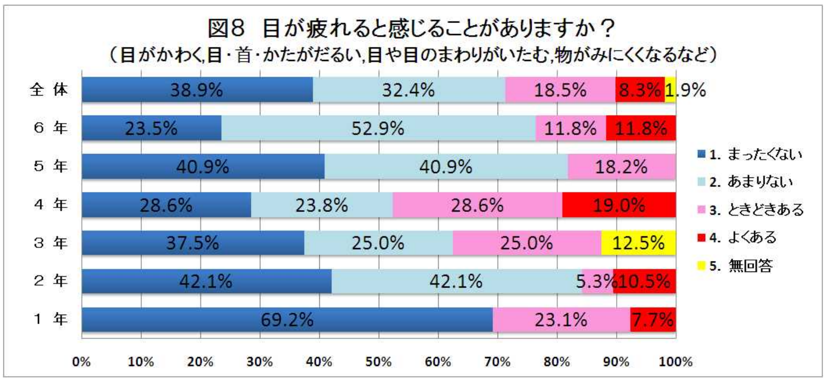


図8 目が疲れると感じることがありますか？
（目がかわく,目・首・かたがだるい,目や目のまわりがいたむ,物がみにくくなるなど）

前髪が目にかかっていると答えた者が全体で10.2%減少した（図9)。前髪については児童との日々の関わりの中で指導を続けた結果，前髪を短く切ったり，ピンやゴムでとめたりする女子児童が増え，お互いに「前髪長いから，ゴムでくくろう。」と声をかけ合えるようになった。

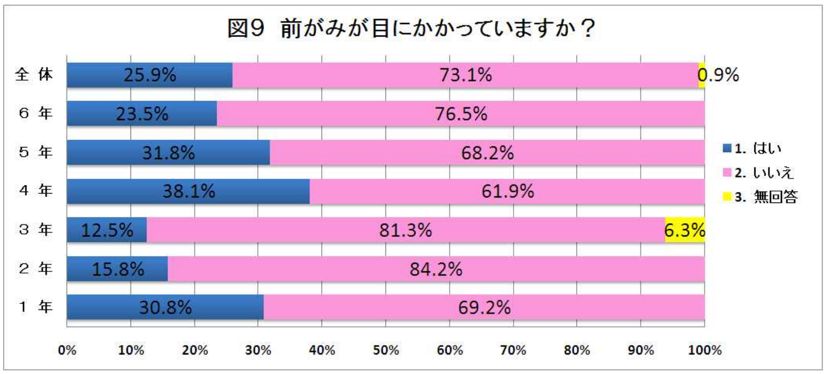


図9 前がみが目にかかっていますか？

その他にも，日常指導を続けたことで，教室の明るさを意識する児童が増え，勉強やパソコンをする時には，児童が自主的に部屋の電気をつけるようになった。

アンケート調査により，本校の目に関する健康課題を明確に理解することができ，教職員間での共通理解が得られ，日々の保健指導に活かされた。2回目の調査結果から，学校全体で健康意識が向上し，目に良い生活習慣ができている児童が増えた。しかし，まだ姿勢が悪い児童も少なくない等の課題があり，今後も目の健康教育を継続していく必要がある。

② 教室環境の整備

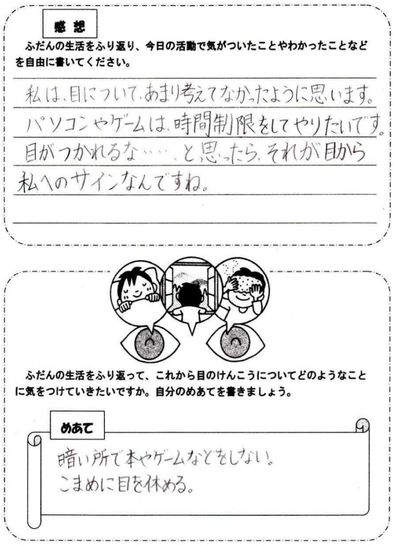
眼科の学校医からの指導内容を活かし，電子黒板については児童から 2m以上距離をとり，見やすさも考え，各学級で机の配置を工夫している。また，パソコン台を作成したことで，良い姿勢の保持に役立っている。教室の照度については，天気や季節等の条件によって照度不足の箇所等の課題がみられ，学校薬剤師からの指導もあり，学校で検討し改善していく必要がある。このような細かな教室の照度測定は本校独自の取り組みであり，教育の情報化の推進に寄与するために今後も継続して実施していきたい。

（２）　保健指導

今回，アンケート調査結果から児童の実態をふまえ，まずは高学年を対象に保健指導を実施し，次に高学年が主体となった保健集会を行うことで，全校児童への保健指導につながっていき，全校児童への啓発や健康意識の向上を図ることができた。目の保健集会では保健委員会の児童が昼休みや放課後に集まり，主体的に取り組むことができた。

また保健指導の中で，目の健康を守るための生活習慣について広く指導したことと合わせて，テレビ，パソコンの適切な使用時間や距離，正しい姿勢等を具体的に指導できたことで，日頃から気をつけようとする児童が目に見えて増え，効果がみられたと思う。保健指導後の児童の感想では，目の健康について意識していなかったことに気づき，普段の生活習慣を振り返りながら，目に良い生活を心がけたいという意欲をもつことができていた（資料 1）。

保健指導を参観した先生方からも，「児童が改めて具体的に目の大切さと日々の生活とを結びつけて考える良い機会となった。」という評価を受けた。たくさんの先生方から指導を受けたことや自身の反省と学びをもとに，効果的な保健指導を行えるよう，努力を重ねていきたい。



資料１　児童の感想

学校全体の取り組みとしては，目の健康体操を児童が楽しみながら実践できている。目の健康体操の際に，なぜこのことが目に良いのかを説明し，目に良い生活習慣について指導することができ，児童の健康意識の向上にもつながっていると感じる。学級担任からも，「児童が自主的に目の健康体操をしたり，遠くを見たりして目を休めるようになった。」との声が聞かれた。また，学校の目標として，目の健康と体力向上への取り組みを関連させて「１日１回外遊び」を設定し，休み時間に外遊びをする児童が増えた。学校全体での日々の取り組みが健康意識を高め，目の疲れ等の自覚症状の改善につながっていると思われる。

（３）　連携

校内研修等で資料を提示し，共通理解を図ったことにより，学校全体で目の健康教育に取り組むことができた。本研究を通して，全教職員の共通理解と協力が不可欠であると強く感じた。目に関する健康課題の解決に向けて，積極的に周囲へ働きかけ，これまで以上に学校全体で組織的に対応していきたい。学校医・学校薬剤師との連携では，専門的な立場からご指導いただくことで，私自身も勉強させていただき，環境整備や保健指導をより充実したものにできた。また，保護者に対し

ては，ほけんだよりやホームページを活用して目の健康についての啓発活動と学校の取り組みや成果を報告できた。今後も保護者への働きかけを積極的に行っていきたいと思う。

５　おわりに

本校は，児童が普通教室で電子黒板やパソコンを利用して授業を受けている。このような環境のもと，本研究を通して実態調査を行い，教室環境の見直しと改善及び目に関する健康教育を推進してきた。

教室環境面については，机・いすの高さ調節や配置，パソコン台を作成する等，より良い環境づくりに取り組んできた。今後も環境衛生検査及び学校薬剤師から指導を受けた照度環境についても，学校で検討し，環境整備に努めたい。

目の健康教育については，全校児童への保健指導と目の健康体操や外遊びの奨励等の学校全体での取り組みを続けてきたことで，児童の健康意識の向上や生活習慣の改善がみられた。今後も目を健康に保つために必要な生活習慣について指導していくとともに，パソコン等を使用する時の適切な距離や時間，正しい姿勢等を継続的に指導していきたい。また，今後の課題としてアンケート調査をより有効に活用し，個別指導の充実に努めたい。

日常生活をする上で，目はとても大切な役割を果たしている。しかし，その大切さを意識しないまま目を酷使していると，目への負担が蓄積し，眼精疲労や近視等の健康問題が進行していくことがある。本研究を振り返って，児童の生涯の健康を考える時，小学校の時期に目の大切さに気づかせ，より良い生活習慣づくりをすることがとても重要だと感じる。また，目の健康教育に取り組んできて，児童の健康意識の高まりと行動の変化を実感し，日々の教育の大切さについて学ぶことができた。養護教諭として，今後も自己研鑽に励み，教職員や保護者，学校医・学校薬剤師等の関係者のご指導を仰ぎながら，健康管理と健康教育に努めていきたい。

おわりに，本研究を進めるにあたり，いつも温かくきめ細やかなご指導をいただいた指導員の先生，専門的な立場からご指導をいただいた学校医・学校薬剤師の先生方，ご指導・ご協力いただいた足代小学校の教職員の方々，そして，足代小学校の子どもたち等，多くの方々にご協力いただいたことを心より感謝申し上げます。

６　参考文献

１）総務省，ICT を利活用した協働教育推進のための研究会，2011
http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/kenkyu/kyoudou_kyouiku/30382.html

２）文部科学省，学校保健統計調査，2012
http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa05/hoken/1268826.htm

３）徳島県教育委員会体育健康課・徳島県学校保健連合会，平成 22 年度徳島県国公立小・中・高等学校及び特別支援学校の全児童・生徒の保健統計，2011

研究主題

体育科において主体的に授業に取り組ませるための教師の手立て

～　器械運動・水泳・陸上運動を通して　～

井内小学校　教諭　中瀧由紀

１　はじめに

井内小学校は全校児童２０人，１・２年，３・４年，５・６年の複式３学級の小規模校である。周囲を山々に囲まれ,学校近くには校区を貫くように井内谷川が流れる，自然環境に恵まれた学校である。校区内に井川スキー場腕山があり，冬はスキーヤーで賑わっている。

保護者をはじめ，地域の方々はあたたかく学校行事には積極的に参加するなど，大変協力的である。

本校児童は，素直で穏やかである反面，物事に対して積極的に動くことが少なく指示を待つことが多い。

体育についてみてみると，体育の時間の学習を見学する児童はほとんどみられず，全員で走ったり跳んだりと，学習のめあてに向かってまじめに取り組んでいる。また，小規模校ゆえに，体育の学習を全校一斉に行ったり，上学年・下学年の２つのグループで行ったりしている。その中では，上級生が下級生に手本を見せたり，教えたりする光景も見られる。しかし，休み時間になると外遊びを進んで行う者もいれば，教室で読書をしたり将棋をしたりする者もおり，運動に対する意欲には個人差もみられる。

２　児童の実態

５・６年生はボール運動への関心が高く，ドッジボールやキックベースボールなどに取り組むときには，チームで作戦を立てるなど，男女仲良く声を掛け合う姿が見られる。

しかし，個人で行う器械運動や水泳運動は苦手だと考えている児童が多い。特にマット運動への興味・関心をみると，「好き」と答えた児童は２名「苦手・嫌い」と答える児童は６名いる。嫌いな者は「マット運動が楽しくない」という心理面での理由を挙げる者が多かった。また，技能面からみると，前転はほぼ全員ができるが，後転はできない児童が半数を超えている。腕支持感覚，逆さ感覚，バランス感覚等の基礎感覚は，運動経験の差もあり，個人差が大きいと感じている。

３　主題設定の理由

マット運動は，一人ひとりが自分の能力に応じて目標を持ち，工夫や努力をしながら練習を繰り返し，自分の目標を達成する運動である。克服すべき困難さは運動自体にあり，自分自身の体を巧みに動かすことによって，「できないこと」が「できるようになる」，さらに「よりうまくできるようになる」という成就感を味わうことができる運動である。

そこで，運動に必要な基礎感覚を高め，異学年の児童がともに学び合いながら，主体的にマット運動に取り組み，目標の達成ができるようにしたいと考え，本主題を設定した。さらに，水泳や陸上運動においてもこの主題の達成を目指して取り組んでいる。

４　研究実践

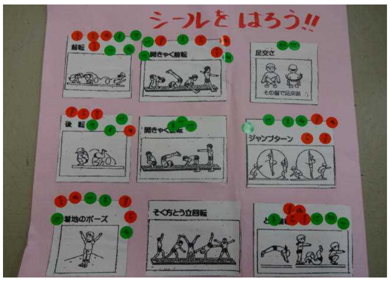
（１） 目標の設定と評価の工夫

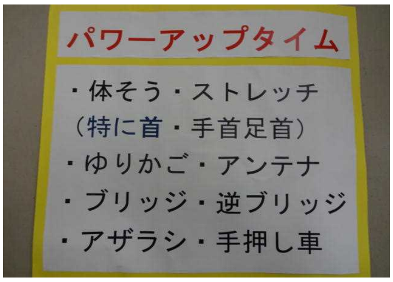
ITC を活用し，動画で自分の技やフォームの確認ができるようにした。それにより，自分の目で客観的に自己評価をすることができ，これから解決すべき課題が明確化された。

さらに，２人組のチームを作り，互いに技の出来具合を視覚によって確認したり客観的に評価したりすることができ，目標の設定と自分の到達度の振り返りに効果的であった。

（２）環境作りの工夫

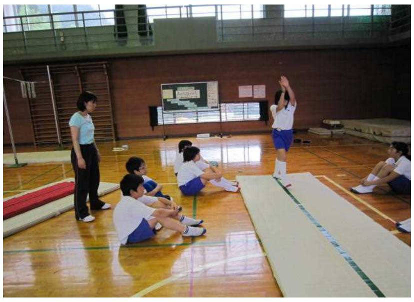
教室に掲示物など「体育コーナー」をもうけたり，体育時には，板書や掲示物を工夫したりした。掲示物があることにより，どのような動きが大切なのか具体的に子どもに分かり，効果的であった。





（３） ２人組での学び合い

互いのめあてや演技を見合うことにより，自分では見えない部分を知ることができ，上達した点などがよりわかりやすくなった。その結果、改善点がはっきりし意欲の向上につながった。



（４）教具の開発

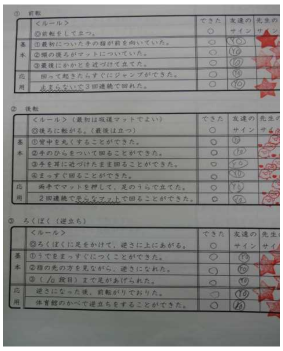
側方倒立回転の練習用に，蹴ると音がするテープを作って授業で使った。側方倒立回転時に足が上へしっかり伸びていると，テープの先の鈴が鳴る。児童は，鈴を鳴らしたくて足をしっかり伸ばすことを意識して練習した。

また，障害走では，段ボールを使い，足がぶつかっても痛くないハードルを作って使用した。これにより，ハードル飛越にも慣れ，本物のハードルを設置しても苦手意識が減っていった。

音を鳴らしたくて，頑張って足を伸ばしました。

痛くないし，本物のハードルも怖くなくなりました。

さらに，技の完成や応用に至る道筋を細分化したカードを作り，児童に持たせ活用させた。児童は，達成できた項目にチェックを入れながら１つずつ段階を経ることで上達していくことができ，意欲の向上に役立った。



段ボールハードル　　　　　学習カードにペアでサインをし合った

（５）学習発表会

マット運動，水泳，障害走の学習のあと，他学年の児童に練習の成果をみてもらうことにした。このことが，学習への意欲を向上させた。児童は，自分の目標をどこにおくかなど，ペアの児童と相談しながら練習に取り組んでいた。発表前に不安があったり，自分たちだけで解決できなくなったりしたときは，自ら進んで教師にアドバイスを求めるなど，児童の気持ちの高まりを実感した。

以上の工夫を踏まえ，授業を実践した。授業者の支持や支援のあり方，用具の配置なども先輩教員から助言をいただき，研究授業を行った。

５　成果と課題

１学期の始めに取ったアンケートでは，個人で行う器械運動や水泳，陸上運動が苦手だという児童が半数を超えていた。しかし，この実践を通して，「来年は体操発表会に出てみたい」「飛び込みができるようになりたい」など意欲的な言葉が出るようになってきた。しかし，運動の種目によっては，まだ主体的に取り組むには至っていない児童がいるのも事実である。それについては，児童の実態に合い，興味関心を引く教材を開発したり，教師の働きかけやゲストティーチャーを招くなどの取り組みを工夫したりすることにより，楽しく意欲的に運動に取り組める授業作りに努めていきたい。

６　おわりに

１学期より，特に体育科において，児童が主体的に学習に取り組むための手立てを考えてき

た。その結果，児童は体育科のみならず，高学年としての自覚の芽生えと相まって，他の教科をはじめ学校生活全体で，自主性や努力を重ねようとする姿勢が高まったように感じられる。

これからも，児童には自分の力を理解したうえで，新たに目標を設定し，それに向けて努力を積み重ねていくように指導することによって，児童自ら未来を切り開き，心豊かにたくましく育つようにしていきたいと考えている。

研究主題

「地域」から「未来」へ
～夢へ向かって「生きる力」を身につけた児童の育成～

馬路小学校　教諭　石丸美穂

１　はじめに

本校区は，池田町の西方約１０ｋｍに位置し，南北は石鎚山系と讃岐山系に挟まれており，馬路川と国道１９２号線に沿った幅約１ｋｍ，東西約４ｋｍ，戸数約２４０あまりある。

本校児童は１６名で，明るく運動が大好きで元気な子どもたちである。保護者や地域の方は学校教育に対して大変熱心で協力的である。様々な行事などを通して公民館や諸団体の方とともに活動する機会が多く，地域の方から温かいご支援やご協力をいただいている。

２　研究の目的

本校は小規模のよさを生かし，家庭や地域との連携を密にしている。子どもたちのためならと協力を惜しまない地域に支えられた学校である。豊かな自然と温かい地域に恵まれた中で育っている子どもたちであるが，まだ十分にそのよさに気づけていない感じが見受けられる。

そこで，今一度自分たちの地域を振り返り，地域の方とのふれ合いや豊かな体験活動を通して自分やまわりの人々，学校や地域のよさに気づき，自分もまわりの人たちも大切にしようとする心情を育てたい。自分が生まれ育ったこの地域に愛着や誇りを持ち，そして将来，社会へと巣立っていく子どもたちに明るい希望を与え，自分の夢を持ち，自分の夢に向かって前進できるよう心豊かにたくましく「生きる力」を身につけさせたい。

３　研究の方法（具体的な取組）

（１）学級での取組（３・４年）

①総合的な学習の時間（うまじっこタイム）

「馬路発見！～ぼくたち　馬路調査隊～」

まず，子どもたちに「馬路はどんなところか（自然・文化・環境・仕事・人など）」を考えさせた。自分たちが知っていること・知らないこと・これから知りたいことを整理させ，実際に地域を歩いてまわりながら，調査することにした。分かったことは校区の地図に書き込んだり，パソコンを使ってまとめたりしている。調査が進むにつれ，地域に対してより興味を持ったり，よさを感じたりしていることが，子どもたちの発言や態度に表れるようになってきた。

②社会科

地域に工場がある池田福助株式会社に見学に行った。保護者や地域の方も多数働いていることもあり，以前から子どもたちにとって親しみのある会社であったが，実際に見学させていただき，働いている方から話を聞いたことで地元の企業のすばらしさに気づいたり，そこで働く人の思いが伝わったりした。

（２）全校での取組

①読み聞かせ

本校では月２回，ボランティアの方が子どもたちに絵本などを読み聞かせてくれている。そのうち１回は地域の方で，子どもたちの実態をよく知っているので，季節に合わせた本や視野を広めるもの，心が温かくなる絵本などを読んでくださっている。いろいろな本との出会いは感情を豊かにしたり，知らない世界への興味や関心を広げてくれたりし，子どもたちの未来，夢へとつながっていくものである。

②田植え・稲刈り

地域の方にご協力をいただいて，春には田植え，秋には稲刈り体験を行っている。作業一つ一つを丁寧にご指導してくださり，高学年になると慣れてくるようで作業も手際よく行っている。子どもたちは毎年楽しみにしており，ご指導してくださる地域の方への感謝の心も育っている。

③敬老会

敬老会は高齢者の方への日頃の感謝やこれからもお元気でという気持ちを伝える機会として捉え，子どもたちが書いた手紙をプレゼントしたり，子どもたちの元気な歌声を届けたりしている。また，一人ひとりと話をしたり，肩たたきをしたりする時間はとても和やかで温かい雰囲気に包まれている。

④運動会

本校の運動会は小学校，青年組織，婦人会，長寿会など地域住民が一体となって盛大に行われる。地域の方は子どもたちの演技を力いっぱい応援してくださったり，一緒に競技に参加したりして交流も深めることができた。そして，

「馬路だよ！全員集合！」という種目では参加者全員で記念撮影を行っている。その１枚の写真に映っているみんなの笑顔は地域を大切に思い，愛し，ここで生きている誇りや強い団結力を感じさせるものである。

⑤ふれあいグラウンドゴルフ大会

公民館と連携して高齢者の方と子どもたち・職員がペアになり，グラウンドゴルフを楽しんでいる。コースを回る間，慣れない子どもたちや職員に優しく丁寧に教えてくださり，励ましてくださる温かい言葉に高齢者の方への感謝の気持ちでいっぱいになった。

⑥ふれあいもちつき体験

地域の方や保護者に協力していただいて，もちつき体験をしている。つきあがったもちはいつもお世話になっている地域の方に子どもたちが書いた手紙を添えて配っている。子どもたちの感想の中には，「米作りを教えてくれた方やもちつきの準備をしてくれた人たちに感謝している。」「みんなの心がこもったおもちはおいしい。」というものがあった。子どもたちはおもちのおいしさの中に，田植えから稲刈り・もちつきと，それまでに携わってくれた人への感謝の気持ちをしっかり感じ取ったようである。

⑦人権学習

・人権集会（なかよし集会）

定期的に全校での人権集会を行っている。構成的グループエンカウンターのミニエクササイズなどを用いて自尊感情を高めたり，他者理解を深めたり，集団のまとまりを促進したりすることをねらいとして取り組んでいる。

・参観授業映画上映会

保護者や地域の方にも案内して，各学級での人権学習を参観してもらった。また，参観授業のあとは人権映画上映会（「にじいろのさかな」「あの空の向こうに」）を行い，学校での人権教育を地域の方にも知っていただいたり，人権についてみんなで考えたりするよい機会となった。

⑧学習発表会

保護者や地域の方も毎年楽しみにしてくれており，大勢の方が見に来てくださる。子どもたちは，合唱や鼓笛演奏，音読や劇，生活科や総合的な学習の報告などを行い今までの学習の成果を発表している。ＰＴＡの発表もあり，保護者も熱心に練習に取り組んでいる。

４　結果と考察

総合的な学習で地域を調査したことや社会科での見学などを行ったことで，自分たちの住んでいる地域を再発見し，よりよく知ることができた。また，行事や様々な活動を通して，豊かな体験を積み重ね，地域の方との交流によって自分自身の成長や地域のよさに気づけたようである。そして，日々の人権教育で互いのよさを認め合う活動を繰り返し行うことにより，少しずつではあるが自尊感情の高まりが見られるようになり，コミュニケーション能力も少し高くなってきたようである。

５　おわりに

本校の教育活動を振り返ってみて，改めて地域の素晴らしさや地域を愛し，誇りを持って生きている地域の方とのふれ合いの大切さに気づくことができた。これからもなお一層，地域の方との交流を深め，地域の一員として地域を愛し，誇りに思うような取組を続けていきたい。

研究主題

社会を生き抜く力をどう育てていくか
～キャリア教育的視点からの授業を考える～

東祖谷小学校　教諭　福田　浩司

1　研究にあたって

「子どもや若者がどのような状況におかれても，社会に適応したり，置かれている状況を自分で打ち破ったりしながら，社会の中で自分の能力を発揮できるようにする必要がある。」
「各学校では，日常の教科・科目等の教育活動の中で育成してきた能力や態度について，キャリア教育の視点から改めてその位置付けを見直し，教育課程における明確化・体系化を図りながら点検・改善していくことが求められる。」
（「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」平成２３年中央教育審議会答申　下線は福田）

この答申を受けて平成２５年に示された「第２期教育振興基本計画」のなかでも，４つのビジョン（基本方針）の１つとして「社会を生き抜く力の養成」が挙げられている。情報や価値観の多様化，若者の職業意識の希薄さなどが問題として指摘されるなかで，その社会を生き抜く力の育成をめざす重要な方策の１つが，「キャリア教育の視点」なのである。

平成２４年度に一体型校舎の東祖谷小中学校として新たにスタートを切った本校でも，キャリア教育的視点からの教育活動の見直し及び実践に取り組んできた。子どもたちが地元東祖谷を離れて巣立っていく１５歳の姿をイメージし，９年間で育成すべき基礎的・汎用的能力を発達段階に応じて設定した（※資料１）。

そして，設定した基礎的・汎用的能力のなかのどのような力をどの活動で培うのか，また，どのような教育活動を展開すればどんな力を育てることができるのか，ということを意識しながら，本来の目的に加え，キャリア教育的視点からも様々な教育活動を位置づけるようにした。

2　研究課題

自分がめざすべき姿を描き，そこに向かうための課題を設定し，自分を高め，社会的役割を担いつつ自己実現を図っていくことが「社会を生き抜く」ためのキャリア構築の能力だと捉えれば，日々の授業においても見直すべきいくつかの課題が見えてきた。そこで，キャリア教育の視点をもち，「社会を生き抜く力」を育てていくには，どのような授業を組み立てていくのがよいのか，ということを課題として授業実践に取り組んだ。ここでは，授業づくりの際に重要となると考える６つの視点と，実際の指導案との関連を示し，研究内容として述べることにする。

〈資料１　東祖谷小中学校で育成をめざす基礎的・汎用的能力〉

東祖谷小中学校で育成をめざす「基礎的・汎用的能力」平成25年度

区別	学年	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
「基礎的・基本的な知識・技能」育成期	小1年	・相手と仲良く話をすることができる。 ・相手の話を最後まで聞くことができる。 ・集団の中で，みんなで遊ぶことができる。 ・自分から手伝いをすることができる。 ・自分が困っていることを誰かに伝えることができる。	・「自分のすきなこと」を表現できる。 ・最後まで努力することができる。	・忘れ物をせず，必要なものを準備できる。 ・宿題をきちんとすることができる。	・一日の時間割を知ることができる。
	小2年	・自分の係や当番の仕事を理解している。 ・小グループの活動の中で，自分を表現することができる。	・「自分の夢」を表現できる。	・興味をもったことについて周りに問いかけることができる。	・一日の目標を立てることができる。
	小3年	・グループで協力して作業をすることができる。 ・集団の中で自分の責任を果たすことができる。 ・学校全体の活動の中で，自分を表現することができる。	・苦手なことにも取り組もうとすることができる。 ・「自分の将来なりたいもの」をいくつかあげることができる。 ・自分ができないときに，それを認めることができる。	・学習の準備を自分ですることができる。 ・約束したことは，守ることができる。 ・自分の興味を持ったことについて調べようとすることができる。	・何日か先の目標を立てることができる。 ・社会にどのような職業があるのかを意欲的に調べることができる。
	小4年	・集団の中で，相手を問わず分け隔てなく遊ぶことができる。 ・集団の中で自分の役割を考えることができる。	・自分のいいところを見つけることができる	・一人で学習に取り組むことができる。	・何週間か先の目標を立てることができる。
社会的・職業的自立の基盤形成期	小5年	・他の人が困っていることに気づき，協働することができる。 ・学校内のボランティアに参加することができる。 ・集団の中でリーダーシップを発揮することができる。	・自分の夢の可能性について考えることができる。 ・苦手なことでも努力することができる。	・与えられた課題を解決するための計画をたてることができる。	・職業に対して，あこがれや夢や希望をもつことができる。 ・夢を実現するために，自分が何をすればよいのか考えることができる。
	小6年	・学校外のボランティアに参加することができる。	・「自分のなりたいもの」を自覚することができる。 ・自分の長所やよさを表現することができる ・感情をコントロールすることができる。	・自分で立てた計画について実行することができる。 ・無理のない約束をすることができる。 ・自分の言動を振り返る事ができ，現在の課題を見つけることができる。	・「働くこと」の大切さを見いだすことができる。
	中1年	・自分の思いとは異なっても，相手の意見を聴くことができる。 ・集団の中で，自分の役割を理解し果たすことができる。	・「自分にできること」を自覚することができる。 ・現状ではできないことがある自分も認めることができる。	・課題解決に向かって，主体的に取り組むことができる。 ・結果をとらえ，原因を考えることができる。	・「働くこと」に関連して自分の将来設計を描くことができる。 （「あこがれ」から「職種」へ）
現実的探索と暫定的選択期	中2年	・多様な他者の考えや立場が理解できる。 ・自分の意図を正確に伝えることができる。 ・チームワークを大切にすることができる。 ・先を見通した上で，リーダーシップを発揮することができる。	・自己肯定感をもつことができる。 ・ストレスの発散方法を身につけている。 ・自分らしさを自覚することができる。	・課題解決のために，適切な計画を立てることができる。 ・課題に対する問題点を見つけることができる。 ・様々な情報を取捨選択して，自分に必要な情報を見つけ出すことができる。	・働くことと関連づけて「学ぶこと」の意義を見いだすことができる。 （「上級学校」や「資格」の必要性） ・「職場体験学習」の意義を理解し，主体的に取り組むことができる。
	中3年	・他者と協働して活動ができる。 ・体験したコミュニケーションスキルのトレーニングを自分で使うことができる。 ・積極的に他のコミュニティーに参加することができる。	・自分の意見があっても，他人の意見を理解し取り入れようとすることができる。 ・今後の成長のために学ぼうとすることができる。	・自らの取り組みを評価し，改善することができる。 ・解決できない問題に対して暫定的な対応策をとることができる。	・自分の暫定的な将来設計ができる。 ・多種多様な生き方があることを理解することができる。 ・自分の進路決定に際し，主体的に判断することができる。

コミュニケーション　他者（友達）と関わる力	セルフエスティーム　自己肯定感	基本的な生活・学習スキル	正しい職業感・意義理解
チームワーク　集団での自己表現力	セルフコントロール　自己管理	課題設定（課題把握）力	職業についての知識・理解
リーダーシップ　集団をまとめる力	自己認識	課題克服に向けての意欲・実践力	目標設定・見通し
集団のなかでの役割認識・責任を果たす力	向上心・努力する力		

3　研究内容

今回は，６年生社会科の歴史学習の授業を研究材料とした。主に次の６点に留意し指導案を作成し授業実践を行った。

> **①教科の目的を明確にし，学習形態を決める。**
> **※どんな力を育てたいのか　　※様々な学習形態**

社会科の歴史学習では，歴史上の人物やできごとに対し，自分で課題を設定したり，調べたりする活動を重視し，興味関心をもち，課題を見つけ，追究する力を育てたいと考えた。また，調べたり考えたりして判断したことをまとめ，言語や絵などで表すことができるように助言してきた。それは，社会的資質や能力という観点で言えば，社会的事象について自分で思考し，判断する力と，表現する力に主眼を置く学習活動と言えよう。

②自分自身への気づきや振り返りを意識させる。
※基礎的・汎用的能力　※学び方を学ばせる　※価値観の形成

先に述べた基礎的・汎用的能力に照らし，この学習（活動）ではどのような力を育てたい（育てうる）のか，を意識して授業を組み立て，指導案にも記した。

学習の導入段階では，課題を目の前にした自分を自覚させたり，学習した後の自分を振り返らせるようにし，「知らなかった自分」「わくわくしている自分」「学んだことでできるようになった自分」など自分自身を認識させることを意識させた。また，どのような方法で学んだのか，学んだことについて自分はどう思うようになったのか（価値観の形成）をまとめ，それらを成果物として発表したり，ポートフォリオとして残したりするようにした。

③課題とするものや，課題に向かう小目標を自分で決めさせる。
※課題設定能力の育成　※ゴールに向かう道筋

調べ学習で，歴史人物の業績やエピソードを調べる前に「どんな人」「何をした人」「だれと関わりが深い人」「どうして～したのか？」など，いわゆる５Ｗ１Ｈのどこに焦点をあてて調べるのかということを考えさせてから自分で調べるテーマを設定するよう助言し，子どもたちが取り組む課題を自分自身で決めたり，選んだりするように支援した。

また，他教科の学習でも，「昨日までの学習を元にして～しよう」など，その時間のめあてにこれまでの学習や体験を生かす意識付けをしたり，解決すべき必然性を含んだめあてにしたりして，「今日はこれをします」というような一方的な学習課題の提示にならないように心がけた。

④自己肯定感を育む場面を意図的に設定する。
※意見の交流　※子ども同士の認め合いを重視した学習の場

内閣府の行った意識調査や諸外国との比較などから，日本の若者は，自己肯定感が低いことが指摘されている。自己肯定感は，すべての学びや生きる力の根幹となるものである。授業のなかで自己肯定感を意図的に育んでいくためには，自分自身で試行錯誤して経験した成果が認められる場を設定する必要があると考える。普段の学級経営はもちろんのこと，授業のなかでも，子どもたち同士が互いの考えや成果を交流し，認め合う場面を意図的に展開させていく必要があるのではないだろうか。

⑤授業との関連を意識して家庭学習に取り組むようにさせる。
※家庭学習内容の小テスト　※授業の導入を家庭学習から

家庭学習の工夫が，子どもたちの「社会を生き抜く力」の育成への大きな要素となっているように思う。学習の習慣化，家庭との連携といった目的で家庭学習を意図する場合もあろうが，加えて，家庭でも主体的な学びを展開させたいものである。

反復ドリルでも，次時の最初に必ずその範囲の小テストを実施したり，自主学習の内容やそれについての自分の意見を発表させたりして，自分なりの目的をもって家庭学習に取り組

むことができるようにした。社会科では前時の終わりに次の自分の課題を決め，家庭での調べ学習から次の時間の学習をスタートさせていくようにした。

⑥内発的動機付けを高める学習課題や学習内容を設定する。
※課題の必然性　　※課題（解決）に対する見通し

与えられる課題を待つだけでなく，子どもたちが主体的に課題に取り組み，学んでいく態度や能力を培うこと。それが，社会のなかで生きていく力の涵養につながると考える。本校の子どもたちも，「学び」に内発的動機がなかなか伴っていなかった。「やらされるからやる」ような姿勢が見えていたのである。課題を自分のものとして捉え，自分なりの意見や考えをもちながら課題に迫っていく学習活動の積み重ねが，「学ぶ」意欲や「学び」の本質，または「学びによって変容した自分・他者」への気づきとなっていくのではないだろうか。

また，課題の設定も重要な要素だと考える。「少し頑張ればできそう」なものや「力を合わせたらできそう」なものなど，教師がどのような課題を設定し，どのような見通しをもたせられるかで，子どもたちの意欲は大きく変わってくるものだと思う。

〈資料２　指導案との関連〉

●教科の目標の明確化

１　本時の目標

武士のくらしについて，資料をもとにして考えたり，意見を述べたりすることができる。

●家庭学習との関連

●自己肯定感の涵養

２　本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準
１　武士のくらしについて，調べてきたことを発表する。	・どのような課題を設定し，　う考えたのかを発言させる。 ・友達の成果を認めるようにさせる。	
武士とはどのような人々でどのようなくらしをしていたのだろう		
２　学習課題を話し合う。	・「武士の起こり」「貴族との比較」「武士のくらし」などから本時の課題を決めさせる。	
３　資料を参考にして，考えたことを発表する。	・どの資料を見ればよいかを助言する。 ・それぞれの課題に応じたワークシートを配布する。	（関・意・態） ・課題に関心をもち発言している。
４　学習をまとめる	・学習を振り返らせ，次の課題を設定させる。	（思・判・表） ・読み取ったことや考えたことをまとめている。

●課題設定能力の育成

●内発的動機付け

●自分自身への気づき

４　結びとして

どのような子どもの姿をめざすのか，そこに向かわせるためにはどのような課題があるのか・・。子どもたちに育てていくべき「課題設定→解決努力」という自己実現へのステップは，教師自身にも意識されるべきである。例示した「東祖谷小中学校で育成をめざす基礎的・汎用的能力表」は，そういう面でも大きな役割を担っていると思われる。自己肯定感を育み，内発的動機付けを図るには，教職員みなの共通理解と好意的な声かけが必要であろう。その時に全員の基準となるものが先の「東祖谷小中学校で育成をめざす基礎的・汎用的能力表」なのである。

今回は，「自分でたてた計画を実行できる」姿をめざし，子どもたちに授業のなかで，課題設定とそれに向けた計画・実行という方法を学ばせる形態をとった。自分なりに設定した課題に向かう際にはやはり，子どもたちは意欲的な姿を見せた。自分で自分の課題を設定していくことの意義は，意欲の向上のみならず，社会における自己実現にもつながるものだと感じた。

また，家庭学習の前にも「どんな○○か」「○○とは何か」「どうやって○○したのか」「○○はどこにあるのか」「○○はだれと関係があるのか」「○○と△△とを比べると」などの課題の選択肢を提示し，課題を選ばせるようにした。また，資料や教科書のどこを見ればよいかも確認したのち，家庭に持ち帰らせた。そうすることで，どの子も自分なりの考えと成果をもって学習に向かうことができた。授業中の支援だけでなく，家庭学習に向けた課題設定や支援も重要だと感じた。そして徐々に自分で課題を設定したり，資料を探したりできるように支援を継続している。

加えて，社会科だけでなく算数や国語などの他教科においても，子どもたち一人一人の考えを交わす場面を設定することによる成果が大きなものであると感じている。学びの場を，支え合い励まし合える豊かな場にしたり，自分の言動が受け止められることで自己肯定感を育む場をやはり，意図的に設定しなければならない。目標とその内容を照らして学習形態を吟味し，効果的な授業をつくる努力をすることが重要だと再認識した。

今回の研究で述べた授業づくりの視点はあくまでも一例にすぎない。大切なのは，教師自身が，具体的な子どもの姿をイメージしつつ，方法や手段における研究と実践を重ねていくこと。それが「社会を生き抜く力」を育てる最も重要な視点だと思う。

〈参考資料〉

「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」中央教育審議会
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1315467.htm

「青少年に関する意識調査」内閣府
http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu.htm

「キャリア教育をデザインする」国立教育政策研究所

研究主題

福祉教育を軸とした総合的な学習の時間の実践
～体験学習を通して～

池田中学校　教諭　　細川誠治

１　はじめに

本校では，学校教育目標「一人一人を大切にした教育を推進し，個々の生徒の持つ力を伸長するとともに，自他を尊重し，豊かな心と生きる力を身につけた生徒の育成」に基づき，「生き方を考える総合的な学習の時間」として，「人と環境にやさしい学校づくり」をめざして，地域の福祉や自然についてより深く学ぶことを目標としている。

２　研究の目的

１年生では「人と環境にやさしい学校づくり」の実践にあたって，社会の一員として自分には何ができるかを考え，それを自分が生きる地域から実践する態度を育てるための効果的な展開の工夫について探る。

３　研究の内容

（１）　テーマ

１年生のテーマ「福祉　ひとにやさしい社会」は，本校がオンリーワンスクールの目標として掲げた「人と環境にやさしい学校づくり」を地域社会まで広げて設定した。

１学期は，「福祉講座から学ぼう」という単元で，２学期は，「福祉施設での体験から学ぼう」という単元で，地域の福祉の実態や取り組みについて体験を通して学び，人を思いやり互いに支え合う社会を作るために，自分ができることを追求させたいと考えている。

（２）　育てようとする資質や能力及び態度

【学習方法に関すること】

①　課題を発見し解決にむけての方法を考える力

②　情報を収集し活用する力

③　相手や目的に応じてわかりやすくまとめ，表現する力

【自分自身に関すること】

①　自らの意思で決定し，主体的に取り組む力

②　目標を設定し，課題解決に向けて行動する力

③　自らの生活を見直し，自己の将来を考える力

【他者や社会とのかかわりに関すること】

①　他者と共同して課題に取り組む力

②　コミュニケーション力

４　研究の実践

（１）単元１　福祉講座から学ぼう

第１次で,これからの学習について見通しをもつためにオリエンテーションから行った。事前にアンケートを行い，自分の人生と福祉とのつながりについて考え，これからの学習について見通しをたてた。また道徳「年をとること」を学習し，支え合う社会の一員として，互いの人生を尊重する「福祉の心」について学んだ。

第２次で，福祉講座にむけて心のバリアフリーを学習して福祉講座にむけての準備を行い，第３次で実際に福祉講座で体験活動を行った。

車いす介助

避難ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ

ニュースポーツ

手　話

第３次の体験活動を通して，第４次では「気づき」として，福祉と自分の生活のつながりに再度目を向け，これからの生活について考えた。

［生徒の感想］

○　「心から人を助けたい」という気持ちが大切だとわかりました。私は，あたたかい気持ちと優しい気持ちをもとうと思いました。

○　福祉の仕事をしている人は，相手が笑顔や幸せになり，「ありがとう」や「また来てね」といってくれるとき嬉しいと感じることがわかりました。普段から自分ができることは，友達を大切にしていくことだと思いました。

（２）単元２　福祉施設での体験から学ぼう

福祉施設を訪問する前に，福祉講座から学んだことを話し合い，これから訪問する福祉施設での自分の行動を考えた。施設利用者や入所者の方と楽しく過ごすために，「自分がされて嫌なことは絶対にしない」ことを確認した。また，「マナーのポイント」「より良いコミュニケーションのためにできること」を確認し，「福祉の心」を感じ取るような行動予定をたてた。

１１月近隣の福祉施設９カ所に訪問し，それぞれの目標をもって活動した。

［福祉体験学習のようす］

自立にむけた職業訓練

お菓子作り

公園での清掃活動

リース作り

割り箸作り

食事の介助

福祉体験を終えて，自分たちの「ビフォーアフター」として，これまでの生活を振り返り課題を見つけ，これからの生活で取り組みたいことを提案し，小グループで話し合ったあと，全施設の体験発表会を行った。

［生徒の感想］

○　最初はとても不安だったけど，利用者の方や職員の方が優しく接してくれたので，不安がなくなりました。私たちがいろいろな話をしていると，お年寄りの方が，笑顔でいてくれたので，すごく嬉しかったです。

○　この体験を通して，お年寄りと積極的に交流したり，困っていたりしたら助けてあげられる人になりたいと思いました。僕の福祉の心は，「みんなが幸せになる」です。

5　成果と課題

福祉講座の学習を通して，「高齢者や障がい者が生活をしていく中で，不便だと感じていることがある」ということを生徒一人一人が気づき，福祉への学びを深めていることがわかった。また福祉施設での体験では，「相手の違いに合わせ，自分にできることを実行する」大切さを実感することができた。この活動を通して，高齢者や障がい者をある一方向からだけ見るのではなく，様々な考えや思いを重ねて多方向から見つめることができるようになった。ともに学び合う場や評価をうける場を設定したことで，自己の活動を吟味し，さらに，高齢者や障がい者に喜んでもらえるものに高めていこうという意欲が見られた。また，他者とのかかわりを通して，自分の行動を客観的に見つめることで，活動の価値を見出し，自己の成長に気づくことができた。このような体験を通して，高齢者や障がい者とともに生きようとする心，自分にできることを実践していこうとする態度が育ってきたといえる。

今後，生徒一人一人がそれぞれ違う課題を設定することで，主体性の育成を図ると共に，これまで得た知識や技能を「使える」ものにしていく経験を積ませたい。

6　終わりに

今回得た，成果と課題をもとに，生徒一人一人が互いの違いに気付き，互いに認め合える態度の育成を目指し，総合的な学習の時間の実践に取り組んでいきたい。そして，私自身が「生徒と共に学ぶ」姿勢を忘れず，取り組んでいきたい。

研究主題

互いを認め合い，共に生きる仲間づくりをめざして
～ハンセン病問題学習を通して～

山城中学校　教諭　峰友　眞弓

１　はじめに

山城中学校では，人権問題学習の一環として毎年２年生がハンセン病問題の学習に取り組んでいる。そして，学習のまとめとして香川県のハンセン病療養施設，大島青松園への訪問を行っている。

ハンセン病は「らい菌」に感染することで起こる病気で，感染すると手足などの末梢神経が麻痺したり，皮膚にさまざまな病的な変化が起こる。かつては「らい病」と呼ばれ，その外的な病変のために患者とその家族は厳しい差別や偏見の対象となってきた。明治期になると患者を強制的に療養所に収容するようになり，1931 年にすべての患者の隔離をめざした「らい予防法」が成立すると，国の政策として患者を見つけ出し，療養所に送り込んで一生出られない状態にした。この隔離が差別や偏見をいっそう助長したと言える。1940 年代には特効薬プロミンが発見され，これによってハンセン病は完治する病気となったが，日本の隔離政策は継続された。1996 年「らい予防法」は廃止され，2001 年には熊本地裁で国の隔離政策が違憲であるという判決が下ったが，古くから社会に根付いたハンセン病に対する差別や偏見はいまだ深く，今も療養所には多くの人が暮らし，そこで生涯を終えている。現在日本ではハンセン病患者は確認されていないが，「ハンセン病問題」は現在も存在しているのである。

２　研究の目的

ハンセン病に関わる私たちの国の歴史は，私たちに決して忘れてはならないことを投げかけている。身の回りにある迷信にも同じことが言えるが，私たちには周囲の意見を信じ込みすぎる傾向がある。「あの人がそうしているから」「昔からそうしているから」という理由で判断するのではなく，真実を自分の目や耳で確かめようとすることが重要なのである。

今，私の目の前にいる生徒たちはみんな多種多様な個性を持っている。中にはこだわりが強くて他者と共同することが難しい生徒や，自分の気持ちを相手に伝えたり，相手の気持ちを考えることが苦手な生徒も少なくない。そして，学級集団の中ではそのような生徒たちは孤立しがちである。しかしふだん友達と楽しそうに過ごしている生徒の中にも，本当の自分の気持ちを言えずに周りに合わせている者もいる。人と人との関わりにおいても，周囲の意見に惑わされることなく，自分で感じ，考え，行動することで相手を理解することの大切さを生徒に学ばせたいと考え，この研究に取り組むこととした。

３　実践

（１）ハンセン病の歴史に学ぶ

ハンセン病の歴史について学んできた中で，特に生徒たちが関心を持って取り組んだの

が「黒川温泉宿泊拒否事件」であった。それまで，生徒たちはハンセン病患者たちを隔離し，人権を奪ってきた張本人は国の政策だったと考えていた。しかし治療法が確立され，「らい予防法」が廃止となり，国もその過ちを認めた後で，一般の社会の中から猛烈なバッシングが起こったことに生徒たちは衝撃を受けた。そして，その差別の構造が自分たちの身の回りにもあることに気づくことができた。

生徒の感想より
　今回学んだのは，元患者を苦しめたものについてです。それは社会や国民にしみこんでいる「イメージ」でした。きちんとした知識を知らない，勝手な思い込みをしている。これだけで元患者と社会との間には見えない大きな壁がありました。元患者は裁判にも勝訴したし，これからは胸を張って歩ける，そんな希望に満ちたときにすごく悲しい現実を突きつけられたのだと思います。けど，そういうことは自分たちの身の周りにもあって，身近なところから始まっていることがわかりました。特に私は誤った情報を信じてしまうことがありました。他にも自分がふだんやっていることが，ハンセン病問題につながることもあって，すごく申し訳ない，切ない気持ちになりました。だからそれを身近なところから直していきたいと思います。

（２）DVD「津軽故郷の光の中へ」に学んで
　桜井哲夫さん（本名　長峰利造さん）は，17 歳の時故郷の青森県を離れ，群馬県のハンセン病療養施設「栗生楽泉園」に入所した。ハンセン病により失明，眼球摘出，すべての指を失うなどの重い後遺症を負いながらも，詩人として，一人の人間として前向きに明るく自分の人生を生きる桜井さんの生き様は生徒に深い感銘を与えた。授業で視聴した DVD は桜井さんの 60 年ぶりの帰郷を追ったドキュメンタリーである。その中で桜井さんを祖父のように慕う女子大生の金チョンミさんや，桜井さんの故郷の家族，長峰家の人々，昔の友人たちは，桜井さんの存在を受け入れるだけでなく人として尊敬し，家族として友人として愛している。その姿から，本当の「幸せ」とは何か，ということについて生徒たちと考え，話し合った。生徒たちは今までの自分自身を深くふり返りこれからの生き方について考えることができた。

　生徒の感想より
○　本当の幸せって何だろう？と考えると，人それぞれだと思いますが，私はみんなが楽しく悔いのない生き方をすることだと思います。差別や偏見とか，その人のことをよく知らないのに見た目だけで判断して同じ人間として見ないなんてまちがっています。その周りで見ている人もきっと幸せではないと思います。私の周りにもよく見られる陰口，悪口も一緒だと思います。言った人も言われた人も幸せなんて思わない。・・・みんなが幸せになれる鍵は「人との関わり」「笑顔」を大事にすることだと思う。どんな人ともふれあって，ふれあっていくうちに関係を深められる。どんな人とも認め合うことで幸せをつかめると思います。私はこれから学習をして学んだ「人との関わり」「笑顔」という幸せの鍵を大事にしていきたいと思います。
○　今回，この学習をして学んだことは大きく分けて 3 つです。一つは「人は一つの行動

や言動など，一瞬で差別をする側にまわってしまう」ということです。ハンセン病の学習をし始めたとき，よく考えると私たちは差別する側にいたんだと思います。けどそこからいろいろなことを学ぶことができました。･･･二つ目は「今もなお，ハンセン病問題で苦しんでいる人がいる」ということです。まだ故郷に帰れない人や本名を名のれない人，療養所を出ることができない人がたくさんいます。今の私たちにできることは「ハンセン病元患者が普通に暮らせる社会」にすることだと思います。最後は「私たちの身の回りにも同じような問題がある」ということです。私は「幸せ」が実現する社会にするためには「人との関わり」が大事だと思います。私は人と話していても第一印象で「あの人はこういう人だな」と決めつけてしまいます。だからもっとその人と関わって，その人の「いいところ」をたくさん見つけたいです。新しい発見をするとその人の気持ちになって考えられたり，もっと絆が深まると思います。ぶつかることもあると思うけど，それも私たちを成長させてくれる鍵になると思います。以前に学習した塔和子さんの詩に「関わらなければ路傍の人」ということばがありました。本当にその通りだと思います。どんな人とでも関わることによってたくさんの発見が生まれ，人は成長していくんだと思います。これからたくさん，いろんな人と出会うと思うので，その人たち一人一人との関わりを大切にしていきたいです。

４　まとめ

今回のハンセン病問題学習の締めくくりとして，大島青松園を訪問した。現地では徳島県人会の 5 人の方が対応してくださり，生徒たちの質問に答えてくださった。中にはぶしつけな質問もあったにもかかわらず，入所者の方々はざっくばらんにいろいろな思いを語ってくださった。その後，園内の施設見学をした。納骨堂に入ると皆一様に神妙な面持ちで手を合わせ，数え切れないほどの骨壺のお名前を真剣に目でたどる姿が見られた。

県人会の方々の中で最高齢の南部さんという方が，お話の最後に生徒たちにこんな言葉をくださった。

「これからの長い人生の中には，悩み苦しむこともあるだろう。でも，その苦しみに浸ってとどまってしまうのでなく，あなたたちには明るい未来があるのだから，それを信じて半歩でも一歩でも前へ踏み出してほしい。」

この学習を通して生徒たちは本当に多くのことを学び，考え，成長したと思う。この学びをまた次の学習へとつなげていきたい。

平成 25 年度　三好教育研究所事業報告

1　研究主題

「未来を切り拓き，心豊かにたくましく生きる子どもの育成」

２　事　　業

（1）調査研究関係

ア　小中連携教育とそれをふまえた学校経営のあり方
イ　複式の特性を生かした学習指導方法の研究
ウ　情報教育にかかわる諸問題の調査研究
エ　生徒指導にかかわる諸問題の調査研究
オ　県内外の教育研究所の研究内容の紹介
カ　各種研究会への参加と研究物収集
キ　購入図書・ＤＶＤ等の紹介

（2）研究会等の開催・共催

ア　研究推進協議会・運営委員会（研究課題についての研究協議）
第１回　6月１１日（火）　　第２回　２月２６日（水）

イ　情報教育研究会（情報教育部会と共催）
◎夏季研修会
７月２９日（月）　於：足代小学校　参加者 45 名　参加企業 21 社
〈内容〉
○セッション
・「情報モラル教育」　昼間小　山口　恭史　教諭
・「産官学の連携」　全参加企業
・「いま必要とされるＩＣＴフルーエンシーのために」　足代小　中川　斉史　教諭
○実践発表
発表者　齋藤　　剛　教諭（三庄小）　吉岡七奈子　教諭（足代小）
竹内　仁美　助教諭（足代小）　土井　国春　教諭（足代小）
◎コンピュータ作品コンクール関係
１０月２３日（水）コンピュータ作品審査会（三好教育センター）
１０月２６日（土）～２７日（日）東みよし町祭りで展示
１１月２２日（金）～２４日（日）三好市民文化祭で展示

ウ　複式教育研究（へき地・複式部会と共催）
◎授業研究会　１０月２４日（木）　於：榠生小学校　参加者 14 名
・体育「プレルボール」～打ちつけて返そう～
指導者　田中　伸幸　教諭　　松尾　麻由　教諭

エ　人権教育研究会（三好郡市学校人権教育研究大会）
１１月　８日（金）就学前・小学校分科会（於：下名小学校）
１１月１３日（水）中学校分科会（於：山城中学校）
１１月１９日（火）高等学校・特別支援学校分科会（於：三好高校）

※「三好教育振興協議会」事務局の事業

オ　新任管理職研修

４月２２日（月）　於：三好教育センター　参加者９名

・「管理職としての心得」　川原　良正　教育長（東みよし町）

・「学校事務について」　東みよし町事務グループ

カ　助教諭学習会（徳公教組と共催）

４月２８日（日）　５月１２日（日）・２１日（火）・２８日（火）

於：三好教育センター　参加者　9～20 名

・「論文対策講座Ⅰ・Ⅱ」　倉本　淳一　教育長

・「教育法規についてⅠ・Ⅱ」　赤堀　誠司　研究員

岡本　博一　研究員

キ　教頭・中堅教員勉強会

６月２４日（月）　７月５日（金）・１１日（木）・２６日（金）

７月３１日（水）　８月３日（土）

於：三好教育センター　参加者 14～22 名

・講義①・②　倉本　淳一　教育長（三好市）

・講義③　渡邉　英典　校長（三野中）

・講義④　竹内　明裕　校長（山城中）

・論文ワークショップ①・②　教頭部会　藤本　愼二　校長（芝生小）

教諭部会　下川　純代　校長（白地小）

（３）各種研究の委嘱

ア　研究発表校

昼間幼稚園　三庄小学校　三好中学校

イ　研究協力校（２６年度発表）

井内小学校　三加茂中学校　三好教育研究所

ウ　委嘱研究員

・幼稚園（第１ブロック）＝昼間幼稚園　石井　やよい　教諭

・小学校　１区　足代小　大久保　智江　養護教諭

２区　井内小　中瀧　由紀　教諭

３区　馬路小　石丸　美穂　教諭

４区　東祖谷小　福田　浩司　教諭

・中学校　３区　池田中　細川　誠治　教諭

４区　山城中　峰友　眞弓　教諭

（４）研究協議会・各種文化団体との協力

ア　三好教育会

イ　三好郡・三好市小教研，三好郡・三好市中教研

ウ　三好郡・三好市学校人権教育研究協議会

エ　三好郡・三好市各幼稚園，小学校，中学校

オ　その他教育関係諸機関

（5）研究調査資料の整備と紹介
　ア　教育図書，各種研究大会研究物，各種研究所刊行物の収集購入
　イ　視聴覚情報機器・教材の購入と紹介

（6）三好地域教育史編集のための資料保存

（7）三好教育振興協議会の事務担当

（8）研究成果の発表及びその普及
　ア　三好教育研究発表会
　　○日　　時　　平成２５年８月２２日（木）１２：１５～１６：４０
　　○会　　場　　三好市池田総合体育館　サブアリーナ
　　○参加人数　　三好市・三好郡内教職員　２４５名
　　　　　　　　　教育委員会関係　　　　　　１０名
　　　　　　　　　教育研究所・三好教育会　　　５名
　　　　　　　　　来賓・その他　　　　　　　１５名

　　○研究発表
　　　・豊かな心をはぐくむ幼稚園教育
　　　　～様々な体験活動を通じて，地域の人々や同年齢，異年齢の
　　　　　子どもたちとふれあう交流活動～
　　　　　昼間幼稚園　発表者：佐藤　重美　教諭

　　　・地域とともにある学校をめざして
　　　　～地域の教育力を生かして育てる三庄っ子～
　　　　　三庄小学校　発表者：三好　美智代　教諭

　　　・生徒一人ひとりの思いが尊重され，
　　　　つながりを大切にする活動を通して
　　　　　三好中学校　発表者：近藤　　剛　教諭

　　○講　　演
　　　演　題　「新教育時代における学校と家庭の役割とは」
　　　講　師　　家庭教育プロデューサー　　酒井　勇介 氏

　イ　研究所報（第９４号）と研究紀要（第５４集）の発刊
　　◆ 各学校にＣＤにて配布
　　◆ 各研究機関にＣＤ等の送付

　ウ　研究員による研究報告（２６年３月）

　エ　ホームページ等による広報活動

歴 代 委 嘱 研 究 員 一 覧(平成元年～)　幼稚園･小学校

年度	幼 稚 園	小 学 校				
	幼稚園	小学校1区	小学校2区	小学校3区	小学校4区	小学校5区
元	国見マチ子(絵堂幼) 斎藤光子(三野幼)	藤本政義(王地小) 坂野町子(三庄小)	天竹勉(昼間小) 前川順子(辻小)	吉岡弘恵(池田小) 久保徹(箸蔵小)	森勝正(河内小) 小笠健二(大野小)	森本義博(櫟生小) 和田初枝(落合小)
2	国見マチ子(絵堂幼) 斎藤光子(三野幼)	藤本政義(王地小) 坂野町子(三庄小)	天竹勉(昼間小) 前川順子(辻小)	吉岡弘恵(池田小) 久保徹(箸蔵小)	森勝正(河内小) 小笠健二(大野小)	森本義博(櫟生小) 和田初枝(落合小)
3	山口悦子(増川幼) 横田嘉代子(昼間幼)	小笠松美(王地小) 大瀧和彦(加茂小)	藤野圭一(足代小) 為実敬子(西井川小)	武内隆史(出合小) 真鍋宏実(馬場小)	竹野啓治(大和小) 篠原聡(下名小)	細川文男(櫟生小) 松村直也(和田小)
4	佐々木隆子(東山幼) 井上淳子(足代幼)	大瀧和彦(加茂小) 小笠松美(王地小)	為実敬子(西井川小) 藤野圭一(足代小)	武内隆史(出合小) 真鍋宏実(馬場小)	竹野啓治(大和小) 篠原聡(下名小)	松村直也(和田小) 細川文男(櫟生小)
5	岡久尚子(白地幼) 矢野聡子(出合幼)	辻宏明(芝生小) 田岡茂樹(加茂小)	中川糸子(足代小) 齋藤孝(西井川小)	坂本武彦(白地小) 伊丹賢治(三縄小)	田中敬子(上名小) 志磨昭子(大和小)	谷恒二(吾橋小) 大塚一志(栃之瀬小)
6	岡久尚子(白地幼) 矢野聡子(出合幼)	辻宏明(芝生小) 田岡茂樹(加茂小)	中川糸子(足代小) 齋藤孝(西井川小)	坂本武彦(白地小) 伊丹賢治(三縄小)	志磨昭子(大和小) 田中敬子(上名小)	大瀧和彦(吾橋小) 大塚一志(栃之瀬小)
7	大久保珠美(池田幼) 國金砂恵子(野呂内幼)	松田徳子(王地小) 中川斉史(三庄小)	真鍋宏実(昼間小) 土井清子(井内小)	中川法子(池田小) 川人成子(三縄小)	井後辰哉(政友小) 峯川郁代(山城小)	濱口久弥(吾橋小) 森本誠司(落合小)
8	國金砂恵子(川崎幼) 大久保珠美(池田幼)	松田徳子(王地小) 中川斉史(三庄小)	真鍋宏実(昼間小) 土井清子(井内小)	中川法子(池田小) 川人成子(三縄小)	井後辰哉(政友小) 峯川郁代(山城小)	濱口久弥(吾橋小) 森本誠司(落合小)
9	岡尾千恵(下名幼)	原敏二(三庄小)	中川貴史(昼間小)	篠原晃代(馬路小)	小笠原誠(平野小)	徳善之浩(名頃小)
10	木村恵美子(西岡幼)	野町孝英(芝生小)	石井文子(辻小)	島田晴代(野呂内小)	篠原義正(河内小)	岩﨑順子(善徳小)
11	三木香代(西庄幼)	森北直樹(加茂小)	中村瑞穂(足代小)	山下史記(佐野小)	河野通之(大野小)	向井ひろみ(菅生小)
12	渡辺千枝(三野幼)	平田公彦(太刀野山小)	小角昌美(西井川小)	三好美智代(西山小)	谷口政代(下名小)	品川知美(櫟生小)
13	岡本久美(西井川幼)	三橋洋子(西庄小)	今川仁史(東山小)	生藤元(箸蔵小)	三橋泰(落合小)	
14	大西恒子(井内幼)	喜多とよみ(王地小)	細谷加代子(井内小)	近藤直美(池田小)	瀧下光子(西宇小)	
15	山中あけみ(箸蔵幼)	樋口隆則(絵堂小)	加藤公夫(昼間小)	近藤明美(三縄小)	松浦理恵(善徳小)	
16	新居利枝(馬路幼)	松代容子(芝生小)	福田ミカ(辻小)	松下寛興(白地小)	井上清隆(栃之瀬小)	
17	古井智恵子(善徳幼)	武田淳子(三庄小)	佐藤仁美(足代小)	向井ひろみ(馬路小)	山中祐二(大野小)	
18	谷本紀子(大野幼)	平尾佐知子(加茂小)	北川ひとみ(王地小)	渡邊真弓(川崎小)	岡本悟(櫟生小)	
19	佐藤重美(東山幼)	平野貴志(東山小)	豊田昌弘(西井川小)	木内晃(佐野小)	猪子研司(和田小)	
20	鳥首こずえ(加茂幼)	邉見明美(絵堂小)	井原理恵(芝生小)	宮本真吾(西山小)	河野恵子(山城小)	
21	大西照子(西井川幼)	和田光司(西庄小)	小角昌美(井内小)	中妻稔子(箸蔵小)	森祐大(吾橋小)	
22	釈子育香(井内幼)	森幸子(昼間小)	松本珠実(王地小)	永山睦子(池田小)	清重正俊(栃之瀬小)	
23	城尾春菜(池田幼)	小角聡志(加茂小)	平尾昌彦(辻小)	安藤久子(三縄小)	平岡千佳(政友小)	
24	元木真砂代(池田幼)	近藤博美(三庄小)	園尾淑子(芝生小)	神谷美樹(白地小)	岩﨑真人(櫟生小)	
25	石井やよい(昼間幼)	大久保智江(足代小)	中瀧由紀(井内小)	石丸美穂(馬路小)	福田浩司(東祖谷小)	

歴 代 委 嘱 研 究 員 一 覧(平成元年～)　　中学校

年度	中　学　校				
	中学校1区	中学校2区	中学校3区	中学校4区	中学校5区
元	坂部栄子(三野中)	頭師正明(井川中)	小島治子(池田一中)	大畑知(大野中)	住友恵子(西祖谷中)
2	坂部栄子(三野中)	頭師正明(井川中)	小島治子(池田一中)	大畑知(大野中)	住友恵子(西祖谷中)
3	新居克佳(三加茂中)	嵯峨久明(三好中)	西岡ひとみ(池田中)	佐藤英一郎(山城中)	島本富美子(東祖谷中)
4	新居克佳(三加茂中)	嵯峨久明(三好中)	西岡ひとみ(池田中)	佐藤英一郎(山城中)	玉木富美子(東祖谷中)
5	尾関英知(三野中)	井川秀樹(井川中)	入江宏明(池田一中)	西浦陽子(大野中)	三橋和博(西祖谷中)
6	尾関英知(三野中)	井川秀樹(井川中)	入江宏明(池田一中)	西浦陽子(大野中)	三橋和博(西祖谷中)
7	上田尚(三野中)	元木康代(三好中)	村上義昭(池田中)	山田泰弘(山城中)	邉見隆史(東祖谷中)
8	上田尚(三野中)	元木康代(三好中)	村上義昭(池田中)	山田泰弘(山城中)	邉見隆史(東祖谷中)
9	三好康彦(三加茂中)	国友博司(井川中)	伊丹尚子(池田一中)	大西恭司(大野中)	鳥本清(西祖谷中)
10	青山貴幸(三野中)	上田美恵(三好中)	坂本浩江(池田中)	田村裕(山城中)	大谷一幸(東祖谷中)
11	平尾治美(三加茂中)	藤本恒幸(井川中)	尾崎真紀(池田一中)	新見哲也(大野中)	大倉俊之(西祖谷中)
12	宮成万寿美(三野中)	川人勝久(三好中)	内田公生(池田中)	白井正道(山城中)	宮成誠樹(東祖谷中)
13	玉木富美子(三加茂中)	川人祐子(井川中)	西岡ひとみ(池田一中)	板東祥子(西祖谷中)	
14	辺見俊二(三野中)	入江宏明(三好中)	川人恵美(池田中)	根津道子(東祖谷中)	
15	坂部公章(三加茂中)	山内幸子(井川中)	高田和枝(池田一中)	大谷一幸(山城中)	
16	村上義昭(三野中)	野田圭祐(三好中)	峰友眞弓(池田一中)	安田恵(西祖谷中)	
17	玉木利典(三加茂中)	立花久(井川中)	久保喜昭(池田中)	岡本博一(東祖谷中)	
18	木藤和恵(三好中)	宮浦理恵(三野中)	沖原真紀(西祖谷中)	丸岡美枝(山城中)	
19	藤本智恵(三加茂中)	大石さえ子(井川中)	中川浩幸(池田一中)	ナサーニョ・デネヒー(東祖谷中)	
20	垂水恵子(三好中)	窪田和弘(三野中)			
21			尾嶋麻子(池田中)	山口雄三(山城中)	
22	渡辺仁(三加茂中)	近藤幸(井川中)			
23			常村淳(西祖谷中)	山口義明(東祖谷中)	
24	片山徹(三好中)	小出真理子(三野中)			
25			細川誠治(池田中)	峰友眞弓(山城中)	